



## 第24回

### 変幻マルチ① カフェで「秘密の会合」

※2023年12月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

2023年9月4日午後3時、

東京・表参道。ファッションビルが建ち並ぶエリアの一角に、そのカフェはあった。

広い店内に数10組あるテーブル席のいくつかで、複数の若い男女が、入れ替わりながら打ち合わせをしていた。

マルチ商法を手がける組織が、このカフェで「秘密の会合」を開いている。そんな情報を聞きつけ、記者は潜入取材を試みたのだ。中心のテーブル席に、組織のリーダー格とみられる男性がいた。「アラタさん」と呼ばれており、向かいには1人の女性が座っていた。席を訪ねた男性メンバーが、アラタさんに「業務報告」を始めた。

「毎日4アポ入れて」「一番頑

張ってるんすよ、誰よりもアポ数多い」「もっと熱くやりたいのが本音」。自らの成果を、アラタさんに誇らしげにアピールしている様子だった。

アラタさんは、向かいの女性を名指しし「連携してやってもらいたい」と男性メンバーに指示を出した。

会話では「アポ」「ホットリスト」「アポ録」などの言葉が飛び出した。組織の元関係者によると、マルチ商法で使ってきた用語だという。アポはアポイントの略で、勧誘する約束を取り付けることを指す。ホットリストは友人や知人の連絡先をまとめたリストのことだ。

それをもとに新たな会員を勧誘し、アポを取れた相手との会話を録音したものを「アポ録」と呼ぶ。

アポ録の内容をメンバーで共有し、勧誘の技術を磨くのが狙いだという。報告を終えた男性メンバーは別席に移り、今度は別のメンバー1人を囲んで語り始めた。

「熱量あるから大丈夫」「友情じゃなくて夢でつながっている」などと、アラタさんからのアドバイスをもとに、仲間意識を高めて活動を促す様子がうかがえた。

一通り報告を受け終わったアラタさんは、今度は別の男性とテレビ電話を始めた。「ぶっちゃけ時間、間に合わない」と自身の忙しさを吐露しつつ、この日の会合の結果を報告しているようだった。

会合がすべて終わったのは午後8時過ぎ。この日にカフェにいた少なくとも8人が、同じ組織だと確認できた。いったい何者なのか。

実は、いずれも悪質なマルチ商法をしたとして都から行政処分を受けた、都内の三つの会社の関係

者であることが、複数の元会員の証言や資料などから判明した。

アラタさんは「President (プレジデント)」の代表、A氏▽アラタさんに業務報告をした男性メンバーは、同社の関連企業「Pioneer (パイオニア)」の会員、B氏▽アラタさんのテレビ電話の相手は、同じく関連企業の代表、C氏——だ。

東京都によると、3社の手口はこうだ。

まず、マッチングアプリなどを使って知人などをカフェに誘い出す。そして「運営するビジネススクールで投資ノウハウを学べる」などとうたい、強引に長時間勧誘。入会金は42万9000円で、1人勧誘すると10万円がもらえるという高額な契約を結ばせる。お金がないと断ると、消費者金融での借り入れを指示する。

都などによると、この3社はプレジデントを運営母体とし、関連の2社に業務委託する形で多数の

会員を持っていた。この2社はいずれも代表1人と社員1人しかおらず、新たな会員を勧誘して得られる紹介料がおもな収益だったとみられる。2社は21年9月までの1年間で、1億8700万円を売り上げていた。

このカフェは会議だけでなく、勧誘の拠点にもなっていた。記者は8〜9月の間に複数回、会員が他の会員を勧誘している様子を確認した。

勧誘された元会員の男性は取材に「何度も断ったが、5人もの会員が入れ替わりで誘ってきて、すぐ帰りにくかった」と証言する。結局、カフェの閉店間際まで勧誘され、消費者金融から50万円を借り入れて会員になってしまったという。

都は3月、特定商品取引法に基づき、この3社に9カ月間の一部業務停止命令を、3社の代表者とB氏の計4人に9カ月間、同じ業務をすることを禁じる命令を出した。つまり、記者が取材した9月

には、まだその期間が続いており、マルチ商法をすることは禁じられているはずだ。

では、なぜマルチ商法を続けているのか。

取材を進めると、A氏が「関係してやってもらいたい」と名指した女性が、新会社「More（モア）」（東京都）を立ち上げたことがわかった。 || つづく